

[第12回]



# 富士フィルター工業株式会社

代表取締役社長 汐見 千佳 氏

## 目標は「フィルターのデパート 世界中に富士フィルター」 ～世界で一番社員がハッピーな会社を目指して～

富士フィルター工業株式会社は、1966年4月に、現社長のご両親が苦難の末に立ち上げられた「高精度産業用フィルターと、フィルターシステムの開発・設計・製造・販売を一貫して行うフィルターの総合エンジニアリング会社」です。

富士フィルター工業株式会社のフィルターは、自動車、電子部品素材、鉄鋼、化学、航空宇宙、船舶、医薬品など、あらゆる産業に使われており、国内外の多数の企業（その中には、エンジニアリング協会の多くの賛助会員企業も含まれます）との取引があります。

今回のインタビューでは、2代目社長として大切にしている考え方や、今後の展望について熱く語っていただきました。

### 社史のない会社

— 御社のWEBを見ると、1966年4月に会社を設立されて、5月には米国ポートランド市に海外支店、8月には栃木工場建設と、通常では考えられないスピードで事業を立ち上げておられます。また、1971年9月の防衛庁防衛研究所との共同研究を皮切りに、宇宙開発事業団や通産省科学技術研究所のプロジェクトなど、公的な研究開発にも参加されています。何故このような速さで、事業展開ができたのでしょうか。

**汐見** 私にとってお答えしづらいご質問です。というのは、創業者であった父が、「過去」には全く関心がなく、とにかく「将来」にしか興味がない人であったため、「社史」といったものが全くないのです。父の晩年に病床でいろいろな話を聞こうと思ったのですが、父は、「あのジョブは？」とか「クレームはまとまったか」「開発は進んでいるか」といった話にしか興味を持ちませんでした。そこで、今回





を機に古くから当社に勤めている社員や、父とともに苦労して当社を立ち上げた母（現会長）から聞いた話を基に、お話ししたいと思います。

父は、アメリカ人が実質的なオーナーであるフィルター製造・販売の日本法人の「雇われ社長」でした。当時は、日本の法規制により、アメリカ人が日本法人の社長となることができなかったようです。しかし、そのアメリカ人オーナーとの関係がうまくいかなくなり、退職することとなりました。その際、「退職金代わり」ということで、販売していた製品（使い捨てのフィルター）をもらい、母と一緒にアメリカで販売することとしました。父は、オレゴン大学出身で英語には自信があり、アメリカでフィルターの販売ができる、という確信があったのです。父と母は、グレイハウンドバスに乗って、途中で買い手となりそうな工場を見つけると、バスを降りて販売交渉する、といったことを数週間続けていたようです。

そうした中で、あるアメリカ人の工場長が父を気に入ってくれて、「これからは、使い捨てのフィルターの時代ではない。君は金属に詳しいよだから、今ある金属パウダーではない新しい金属フィルターを一緒に作ろう」と言ってくれました。父は、プライベートではシャイで無口な人でしたが、フィルターの話になると、常に熱く語っていました。金属やフィルターに関する深い知識と、仕事に対する情熱が、信じられないような幸運を引き寄せたのだと思います。

父は、結婚式の費用の手当ても苦労

するような人でしたが、様々な方のご支援を得て、なんとか当社を立ち上げ、成長させていったのだと思います。

—すごい人ですね。

**汐見** むちゃくちゃ面白い人だったと思います。

## フィルターの 総合エンジニアリング会社とは

—ここで、「御社の現在」に話を移したいと思います。御社は、「フィルターの総合エンジニアリング会社」である、とのことですが、これは、単なる「フィルターの製造会社」ではない、ということなのでしょう。

**汐見** はい。単体のフィルターをつくることは当然ですが、複数のフィルターを組み合わせたシステムもつくるし、更には、他のパーツを組み合わせてミニプラントのようなものまでつくるのが当社の役割です。必要であれば、シミュレーション、テストも行いますし、システムの設計、製造、運転始動からアフターフォローや洗浄まで、全てを行います。当社製のフィルターより、他社製のフィルターの方がお客様の仕様やニーズに適合していると考えれば、他社製のフィルターを使うこともあります。更に、当社だけではできない部分があれば、お客様に対して適切な会社を紹介する、といったコンサルティングも行っています。

—なるほど。お客様に提供するのは、単なるフィルターではなく、フィルターを使った「システム」であったり、「コンサルティング」であったりすることから、「フィルターの総合エンジニアリング会社」というわけですね。

## 目標は 「フィルターのデパート」

—ところで、御社の会社案内を見させていただくと、フィルターの種類もさることながら、使われている産業の多様さやお取引先の数の多さに感動してしまいます。

**汐見** 私どもも、「自分たちは、全ての産業分野にフィルターを納めているフィルターのデパート」と思っていたのですが、コロナ禍の中で、じっくり当社のポートフォリオを見た結果、未だ十分ではないことがわかりました。例えば、宇宙分野について言えば、ロケットで使われているフィルターは当社がつくっていますが、宇宙ステーションで使われているフィルターはつくっていません。また、医療関係で使われている一部の特殊なフィルターについても、当社のラインナップに入っていません。当社は、どんなお話を頂いても決して「No」と言わずやれる方法を考え、「本物のフィルターのデパート」「世界のどこでも富士フィルター」を目標としています。そのためには、まだまだ努力しなければならないことが、たくさんあります。

—そうは言っても、御社のように幅広くフィルター関連の事業を行っている企業は、ないのではないのでしょうか。お客様からしてみると、フィルター関連で何か相談したい時に、まず御社にお話をすればいい、ということですよ。

**汐見** はい。少なくとも日本においては、当社ほど幅広いフィルター関連事業を行っているところはない、と思います。行動指針の1つが、「Never Say No!」なのでご相談を頂ければ、何らかの解決策（ソリューション）をご提案いたします。

—例えば、最近どの企業も、「カーボンニュートラル」が課題となっていますが、御社に相談すれば、何らかの解決策をご提案いただけますか。

**汐見** もちろん様々なご提案ができると思います。排出されたものの回収は難しいのですが、排出時のフィルターはできますし、お客様のゼロエミッションに貢献出来る様、弊社がフィルターを作る際の二酸化炭素排出量を減らす試みをしておりまして、そのことが結果今までお使いいただいたフィルターを、当社のフィルターに変えることで二酸化炭素の排出の抑制につながることが出来ます。

## 社員が世界で一番 ハッピーな会社を目指して

— 今日初めてお会いしてこんなことを言うのは、失礼かもしれないのですが、汐見様は大変明るい方であり、こうした社長の下で働く社員は幸せだろうと思います。ここで、御社の社風や人材育成の話をしたと思います。御社のWEBを見ると、企業理念として「世界で一番社員がハッピー」ということが打ち出されているのですが、是非この点を少しお教えいただけますか。

**汐見** これは、父から受け継いだものではなく、私が代表取締役社長に就任した際に、「第二創世記」の企業理念として打ち出したものです。人は自分がハッピーであればマニュアルではない相手のニーズの1歩先のわくわくを想像/創造でき、世の中をハッピーにできると考えています。

実は、社長に就任して、あるエンジニアリング会社を訪問した際に、「企業理念は何ですか」と質問され、「世界で一番社員がハッピーな会社です」とお答えしたところ、「顧客満足ではないのか」とお叱りを受けました。私の説明が不十分だったのだと反省しておりますが、「顧客満足」「社会貢献」は当たり前で、その上でさらにステーキホルダーのニーズを超えるわくわくを提供するには社員がハッピーでなければ、実現できないことだと思っています。

何をハッピーと感じるかは、人によって様々だと思いますが、最大公約数を取ったときには、成長感がある、承認欲求が満たされる、周りが自分の貢献を認めてくれる、安全安心が保証される、チャレンジが出来るといったことかなと。例えば、成長感では当社のような中小企業では珍しいと思いますが、全社員対象の英語研修があります。

— 取引先リストを見ると、約半数が外国企業ですので、英語の勉強は必須でしょうね。

**汐見** そのとおりです。従来は、英語を使える人だけが、外国企業との交渉を

行っていたのですが、それではだめだと思います。また、英語にチャレンジすることによって、「家族と海外旅行に行ってみよう」と思ったり、何事に対してもチャレンジする精神を得られたりする、といったメリットがあります。将来、他の会社で働くことになったとしても、英語ができることは「売り」になります。

また、工場における訓練についても、OJTだけではなく、専用のキットを準備し始めています。これは、私自身が栃木県の工場で、1年間修業した経験を踏まえて行っていることです。お客様にお渡しするものは、常に完璧なものでなければなりません。私は、「在庫にあるものを使って、どんどん訓練してね」と言っています。

— さきほど、「本物のフィルターのデパート・世界のどこでも富士フィルター」を目指す、といったお話を伺いましたが、そのほか、こうしたことを目指す、といったことはあるのでしょうか。

**汐見** フィルターからもう1度立ち返って「多孔質体」にフィーチャーしています。弊社の素材は、歯科矯正用のシートや潜水艦のスターリングエンジンにも多孔質体として使われています。当社の磨いてきた多孔質体という特徴で様々なテクノロジーの発展に貢献できるのでは、と思っております。

## 会社を継いだ理由は 「いい会社」だから

— ここで、汐見様ご自身の話に移りた



左：幅広い産業の製造工程で使われている「フジプレート」  
右：船用燃料油システムの「フジ・ジェットフィルター」

いと思います。汐見様は初めから会社を継ごうと思っておられたのですか。

**汐見** いいえ。実は、スポーツドクター志望でした。ところが、ある時、「富士フィルター工業株式会社」というのは、大変いい会社。スポーツドクターは私じゃなくてもいいけど、富士フィルターは私が残すと勝手に思ったのです。

— そのように思ったきっかけは、何だったのでしょうか。

**汐見** 高校生の時1年間米国に留学させてもらって、ホームステイさせていただいたご家族と様々な話をしていく中で、自分の家族を見直すことになったのです。

それまでは、家庭を顧みず仕事ばかりしている父が大嫌いでした。しかし、一代で会社を立ち上げ、世の中で必要とされている製品やサービスを提供している。更に、そこで得た資金で、娘を海外留学までさせている。父を改めて見直し、スポーツドクターになるのを辞めて、会社を継ごうと思ったのです。ただし、留学から帰ってきて、経済学部や工学部に入ることは難し



## 汐見 千佳 (しおみ ちか)

1972年 東京都生まれ  
1995年 3月 成城大学文芸学部卒  
1995年 4月 富士フィルター工業株式会社入社  
2001年 3月 同社取締役就任  
2003年 6月 同社常務取締役就任(昇任)  
2003年10月 同社取締役副社長就任(昇任)  
2006年 3月 同社代表取締役社長就任(現任)

く、結果として、大学は文芸学部に入りました。そこで、会社の勉強をすればよかったのですが、在学中はスキーに忙しく、結局フィルターや経営の勉強は、会社に入ってからということになりました。まずは、1年間栃木県の工場で、ものづくりの修業をさせてもらいました。その後、総務や経理でも研修させてもらいました。ただ継がせる気のなかった父は何も教えてくれないので、本を読んだり、学校に通ったりしながら、独学で経理や経営の勉強をしました。

更に、フィルターに関する十分な知識もないまま海外営業をしていましたが、女性であることはお客様に覚えてもらえやすい、という点では有利だったと思います。今までやっていなかった分野の顧客獲得もできたのですが、なかなか父は私を後継者と認めてはくれませんでした。入社から8年経って、常務取締役役に就任した際に、初めて後継者として認めてもらいました。

## 創業と守成 いずれが難きや

—世間では一般に、父親の跡を継いだ2代目社長は苦勞する、といったことが言われます。ご自身の経験から、どのよう  
に思われますか。



**汐見** 私に関して言えば、父と性別が違っていたことはよかった、と思います。おそらく男同士であったら、もっとぶつかったと思います。私が気を付けたのは、自我を出しすぎない、ということです。要は会社がうまくいき、社員がハッピーになることが重要なのであって、自分を出す必要は全くない、と思います。父が社長である限り、私は一切口出ししないでおこうと思いました。これは父の会社なので。ただ、私の代になった時は、どう変えようか、とか一緒に会社の為に知恵を絞ってくれる人は誰だろう、ということは常に考えていました。承継後、みんなに支えて、守ってもらったのも女性だからかな、と思います。

創業と守成は得手不得手で、父は、「0から1を作る」ことが得意な人で、私は、「1を10にする」ことが得意なタイプなので、お互い合っていたのかな、と思います。

## 趣味はトライアスロン

—最後に、汐見様の趣味は、何でしょうか。

**汐見** 今一番はまっているのは、トライアスロンです。趣味程度ですが、12年ほどやっています。宮古島の大会は、3.8km泳いで、バイクがちょっと短くて150km、最後にフルマラソンを走ります。最初からフルマラソンを走れと言われると、「無理・・・」と思うのですが、泳いで自転車をこいできて、「後はフルマラソンで終わりだよ」と言われると、「イエイ」と思います。コロナ禍にあって、時間もできたので、チームメイトと意見交換しながら朝走るのが今しかできないプレシャスタイムです。

—本日はありがとうございました。



トライアスロンレース中の汐見氏

## インタビュー後記

私が行っている社長インタビューで、初めての女性社長へのインタビューでした。まず感じたことは、「とにかく明るい」。それから、「かっこいい」。謙遜されているのか、あまりおっしゃりませんでした。2代目社長になるに当たっては、並大抵の努力ではなかった、と思います。しかも、努力家になりがち暗さを、全く感じませんでした。

社長業をしながらも、トライアスロンを趣味にするというのは、私には、想像がつかない世界です。私は、マラソンだけで十分です。

聞き手：当協会専務理事  
前野 陽一

## 会員企業データ

社 名：富士フィルター工業株式会社  
事業内容：産業用フィルター製造および販売  
設 立：1966年4月  
所 在 地：東京都中央区日本橋 2-3-4  
日本橋プラザビル11F  
従業員数：220名(2021年3月現在)  
ホームページ：<https://www.fujifilter.co.jp/>

